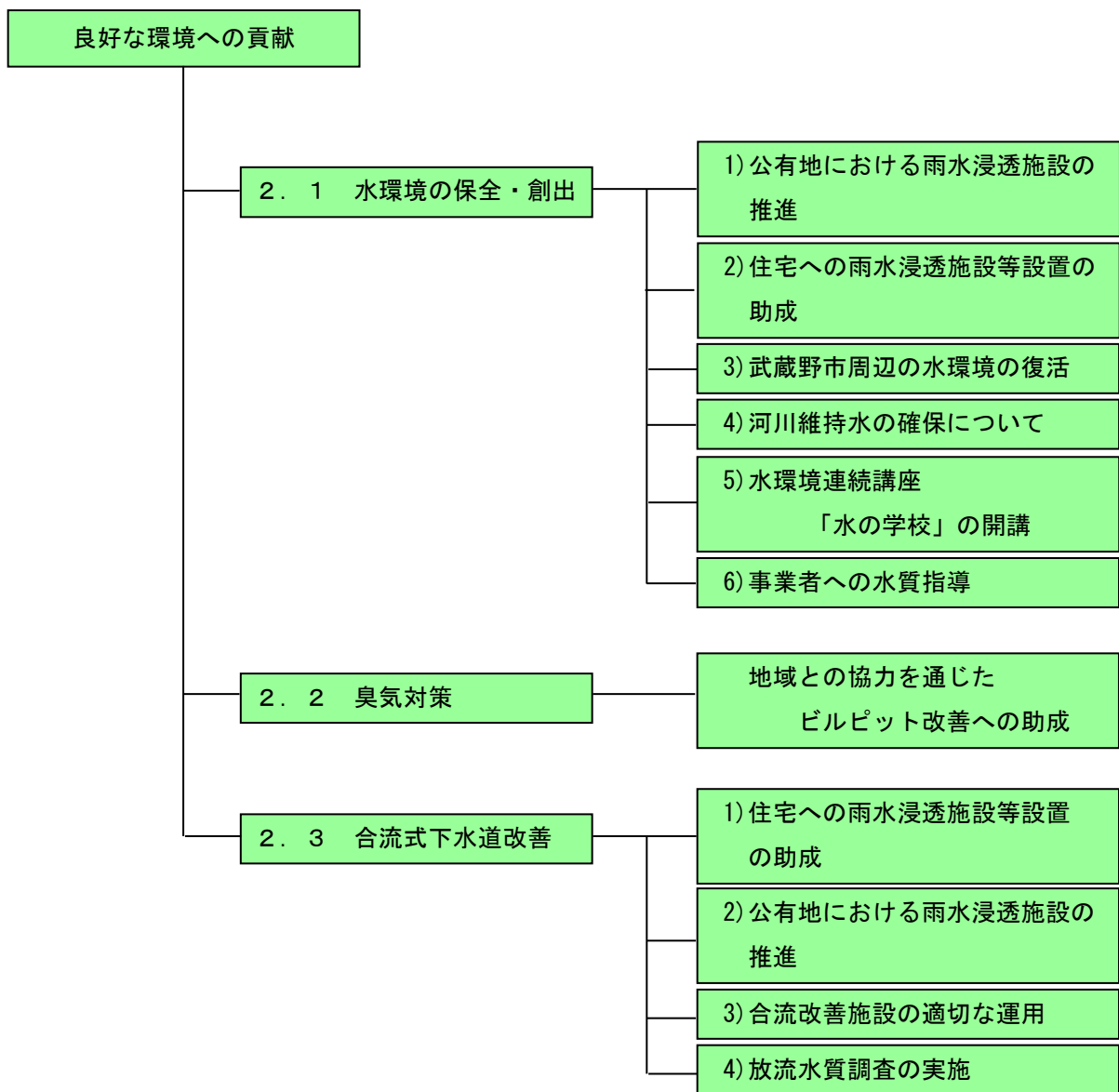


## 2. 良好な環境への貢献

従来的な下水道の役割としての施設整備や浸水対策だけでなく、身近な水辺の復活等を求める声も高まっていることから、下水道に対する市民のニーズは多様化していると言える。今後は、下水道に関する施策を総合的な環境問題として捉える視点がますます重要となる。

本項では、良好な環境へ貢献する方針と施策を示す。



良好な環境への貢献に向けての施策体系

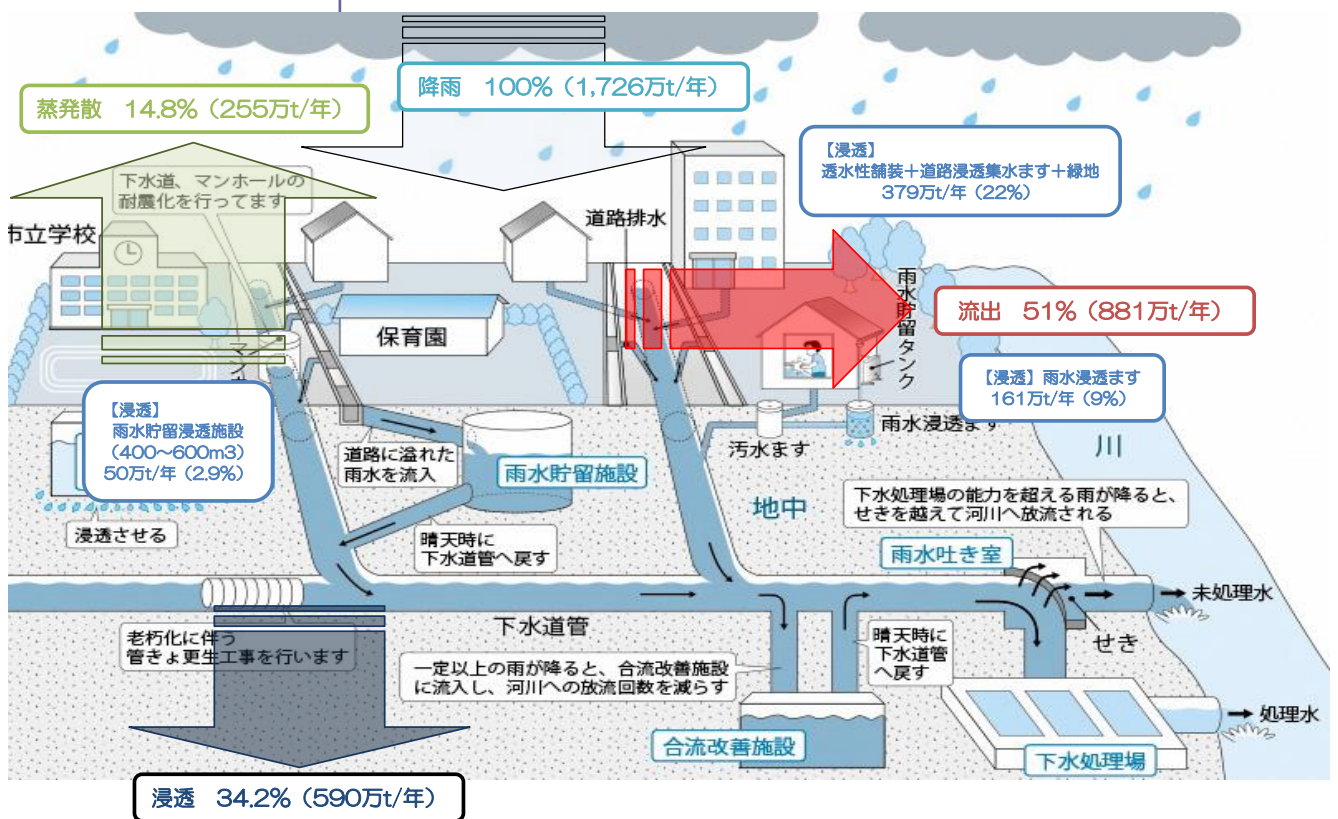
用語：雨水浸透施設、ビルピット、合流式下水道改善

## 2. 1 水環境の 保全・創出

### (1) 方針

水環境の保全・創出は、浸水対策につながるのはもちろん、地下水の涵養や枯渇した湧水の復活、ヒートアイランド現象の緩和、うるおいのある都市環境づくり等、総合的な環境問題の解決にも資する。

今後は、雨水利活用条例に基づき、市民等と協働で雨水浸透施設の設置や環境啓発の実施等を推進し、水循環の保全・創出に努める。



—水収支イメージ図 (平成 29 年現在) —

用語: ヒートアイランド現象、雨水利活用、雨水浸透施設、雨水貯留浸透施設、更生、雨水貯留施設、合流改善、汚水ます、雨水浸透ます、雨水吐

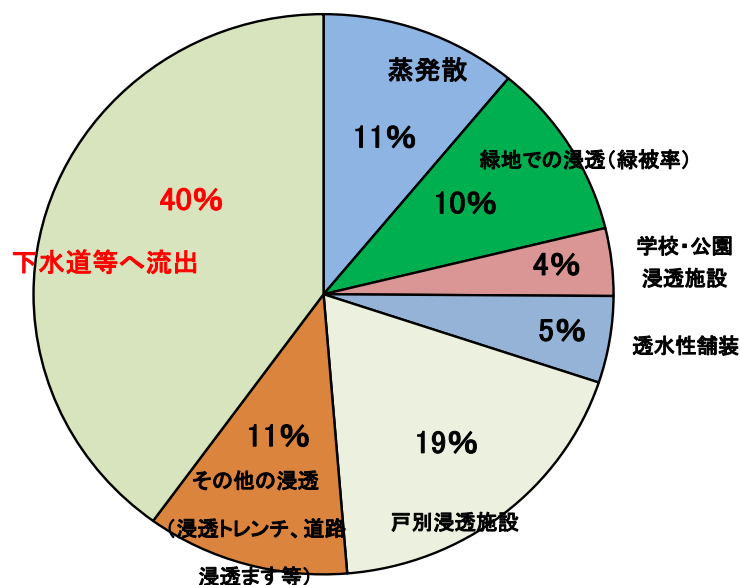
【流出抑制に関する実績と目指すべき将来像(下水道総合計画 2014 で設定)】

貯留浸透等 施設項目	【実績】 平成 25 年度末 (総合計画 2014)	【実績】 平成 29 年度末 (総合計画 2018)	【将来像】 平成 45 年度末 (平成 25 年度から 20 年後)	【将来像】 平成 55 年度末 (平成 25 年度から 30 年後)
戸別浸透施設	8,000 戸	9,898 戸	19,200 戸	24,000 戸
学校・公園 貯留浸透施設	6,450m <sup>3</sup>	8,150m <sup>3</sup>	9,700m <sup>3</sup>	9,700m <sup>3</sup>
緑被率の向上	25.3%	24.3%	28.4% ※1	30.0% ※1
透水性舗装	14.2ha	16.8ha	41.4ha	61.8ha
浸透トレンチ 計画 2014 では 設定なし	45,505m	48,941m	—	—
道路浸透ます 計画 2014 では 設定なし	106m <sup>3</sup>	199m <sup>3</sup>	—	— ※2
<b>流出係数</b>	<b>0.52</b>	<b>0.51</b>	<b>0.44</b>	<b>0.40</b>

※緑の基本計画 2008 (緑のまち推進課) では、平成 49 年度に緑被率 30%の目標を掲げている。

※下水道総合計画 (2014) では将来像の設定をしなかったものの、道路浸透ますについて道路課では、おおむね平成 55 年度ごろまでに 1,900 基 (1,410m<sup>3</sup>) の設置を目指している。

平成 55 年度末における流出抑制の内訳

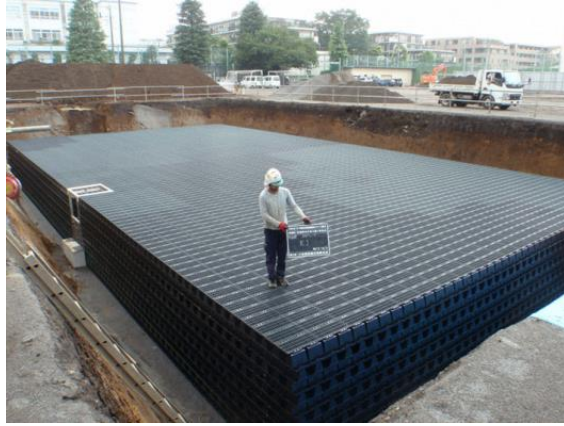


用語: 流出係数、雨水浸透施設、雨水貯留浸透施設、緑被率、浸透トレンチ

## (2) 具体的な施策

### 1) 公有地における雨水貯留・浸透施設の推進 (P38の再掲)

市立小中学校等への雨水貯留浸透施設の設置や公園等の緑地の確保、さらに市内の生活道路に対する透水性舗装や道路浸透ますの整備等、雨水浸透を推進する。



学校校庭への雨水貯留・浸透施設の設置工事の様子 (第一中学校)

### 2) 住宅への雨水浸透施設等設置の助成 (P38の再掲)

下水道管路施設に流入する雨水を減らすため、住宅への雨水浸透施設等設置に関する助成を行う。

### 3) 武蔵野市周辺河川等の水質改善・水量確保

武蔵野市内には一級河川の仙川が、周辺には野川、善福寺川が流れており、また武蔵野市に隣接する井の頭池は、神田川の水源となっている。

これらの河川の上流域に位置する武蔵野市において、雨水浸透施設の設置や透水性舗装への切り替えを推進していくことで、雨水を地下へ涵養し、地下水の水質・水量の確保に取り組む。このことにより上記河川や井の頭池の水質改善・水量確保につなげ、水環境の保全・創出を目指す。

### 4) 河川維持水の確保について

武蔵野市を流れる唯一の一級河川である仙川については、都の境浄水場からの洗砂水や市の第二浄水場からの逆洗水等を送水しているが、浄水場の建て替え等により送水量の減少が懸念されている。

今後は、限りある河川維持水を有効に活用できる方策について検討していく。

## 5) 水環境連続講座「水の学校」の開講

暮らしの中の身近な水循環や下水道の役割等、水に関する様々なテーマについて市民とともに知り、考える参加型の水環境連続講座「水の学校」を平成26年度から開講している。今後も講座を継続し、多くの市民に対し下水道に関する深い理解を促す。

## 6) 事業者への水質指導

有害物質の下水道管路施設への流入防止を図るため、工場や事業場等の事業者に対し、水質管理者の選任・水質測定の実施等について継続的に指導を行う。また、東京都と連携しながら、事業者への立ち入り検査及び水質検査（年4回）を行う。



水質調査業務



## 2.2 臭気対策

### (1) 方針

吉祥寺駅周辺等のイメージアップと快適なまちづくりのため、これまでの臭気調査結果に基づき、外国人観光客の来街が見込まれる平成32年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、助成制度等を通じて臭気対策を行う。

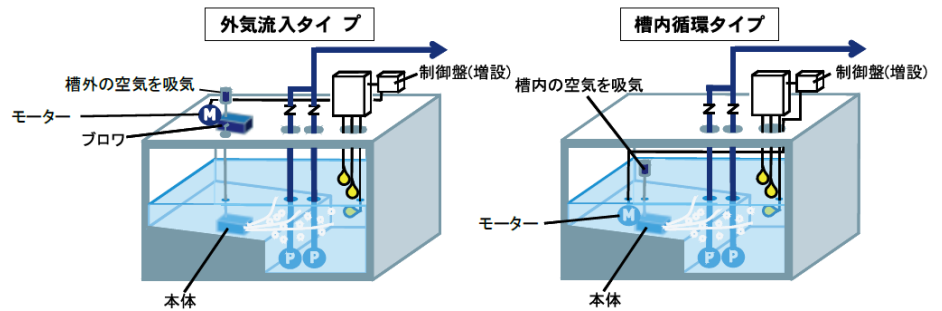


多くの人で賑わう吉祥寺駅前

### (2) 具体的な施策

#### 地域との協力を通じたビルピット改善への助成

特に吉祥寺駅周辺について、臭いの発生源であるビルピットの臭気対策に対し、助成を行う。その際、臭気問題を地域全体で共有するために、吉祥寺活性化協議会と協力し、建物所有者に対して問題認識を促すとともに、助成金の積極的なPRを行う。



ビルピット内臭気対策例

## 2. 3 合流式下水道 改善

### (1) 方針

合流式下水道は、汚水と雨水を同じ管路施設で流すため、雨天時には未処理下水の一部が雨水吐から河川等へ放流されてしまう問題があった。そのため、本市は未処理下水やごみ（きょう雑物）等を削減するための対策（合流改善対策）を積極的に推進し、神田川や善福寺川流域の水質向上や東京湾の水環境保全に貢献してきた。今後も吐口における水質調査を継続的に実施し、未処理下水の放流の監視を行う。

### (2) 具体的な施策

#### 1) 公有地における雨水貯留・浸透施設の推進（P38・43の再掲）

市立小中学校等への雨水貯留浸透施設の設置や公園等の緑地の確保、さらに市内の生活道路に対する透水性舗装や道路浸透ますの整備等、雨水浸透を推進する。

#### 2) 住宅への雨水浸透施設等設置の助成（P38・43の再掲）

下水道管路施設に流入する雨水を減らすため、住宅への雨水浸透施設等設置に関する助成を行う。

#### 3) 合流改善施設の適切な運用

合流改善対策として整備した貯留施設及びきょう雑物除去施設等について、計画的な設備の交換・オーバーホール等による維持管理、適切な運用を行い、快適な環境を確保する。

#### 4) 放流水質調査の実施

平成16年度の下水道法施行令の改正に基づき、雨天時に下水道施設から放流される未処理流水の水質検査を年1回実施している。今後も合流改善対策による効果を把握するために、水質調査を継続して実施する。



モニタリング調査